

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284028

研究課題名(和文) 能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究

研究課題名(英文) Fundamental Research on Noh and Kyogen Masks from an Art History Approach

研究代表者

浅見 龍介 (ASAMI, RYUSUKE)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・企画課長

研究者番号：30270416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代までに作られた能狂言面の調査を行ない、東京国立博物館所蔵の金春家伝来能狂言面については線CT調査を実施した。社寺あるいは美術館所蔵の収蔵面に金春家の名物面の写しがあり、比較検討することにより、制作年代、作者、写しの関係性などについて成果があがった。  
室町時代に作られた古面は面裏の彫り、樹種(クスノキ、キリなど)、木取り(木心を込める、節がある)などに特色の見られることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This study conducted research on Noh and Kyogen masks from before the Edo period, with X-ray CT images taken for Noh and Kyogen masks formerly kept by the Konparu troupe and now in the Tokyo National Museum collection. Comparative studies between copies of important Konparu masks preserved at shrines, temples, and museums led to outcomes revealing dates, makers, and relationships between copies.

As a result, it was ascertained that ancient examples from the Muromachi period had certain characteristics; their carvings on the back side, the type of wood (camphor, paulownia, etc.), and how the material was taken from the timber, such as whether the core or knots were included.

研究分野：日本彫刻史

キーワード：仮面 能面 狂言面 能楽 猿楽

### 1. 研究開始当初の背景

日本には現在まで多くの能狂言面が伝来しているにも関わらず、能狂言面や面打の全体像を把握できていない。その理由として三点が挙げられる。

(1) 面に信頼に足る情報の記されることが少ないこと。特に室町時代の面には銘記のあるものが極めて少なく、また、作家についても記録がほとんどない。わずかな伝承が手掛かりではあるが、美術史研究において制作年代や作家判定の決定的な材料とはなりえない。

(2) 能狂言面独特の写しの文化が制作年代の推定、作者の特定を困難にしている。江戸時代にはもっぱら古く評価の高い優品(古面)の写しが行なわれ、形だけでなく、表面の彩色の傷、剥落、汚れまで徹底して写すことが多い。珍重された面ほど写しが多く、写す際、面裏の彫り、銘記や焼印(面打の名前等を記すもの)に至るまで後世の作家が写すことがあり、作者判定の材料として信頼できるものがない。そのため、制作年代や作家の判定はもちろん、それら写しの前後関係を確定することすら困難になっている。

(3) 彩色を補修している面が多い。補修が全体に及び、当初の彩色がほとんど残らない作品もある。彩色は作家の個性を見出しやすい部分であるとともに、面そのものの作風を大きく左右する。彩色の補修が多いことは時代や作家の特徴の把握を困難にする。

以上三点に加え、調査項目(内容)の不統一も相俟って、客観的な判断材料は共有されておらず、美術史的な視点から能狂言面にアプローチする研究は進展しない状況が続いている。

### 2. 研究の目的

(1) 制作年代を推定するための基準作例を見出し、造形の変遷を辿る。名品が数多く作られた南北朝から室町時代の能狂言面を彫刻史上に位置付ける。

(2) 面打の個性を見出し、作家系統と影響関係などを探る。

(3) 大名家の能狂言面コレクションの形成について考察する。

### 3. 研究の方法

(1) 採寸、計量

(2) 造形の特徴、彩色、剥落、傷、銘記などを記録し調書を作成

(3) 正面・左右斜側面・左右側面・裏面・俯瞰の撮影(有機EL照明を使用)

(4) 彩色の部分拡大撮影

(5) 東京国立博物館収蔵作品については順次X線CT調査

(6) 調書と写真を整理し、作品を比較、分析する。

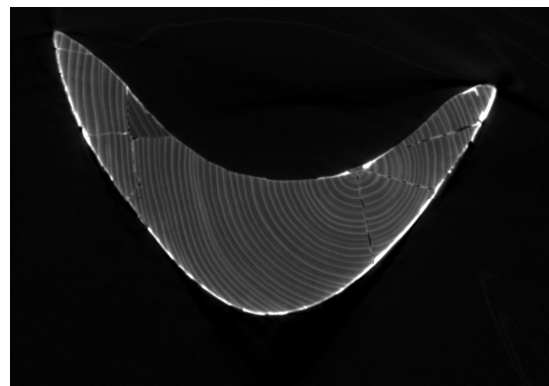
(7) 文献資料の収集

(8) 写真の収集。調査が困難あるいは現在所在不明の作品などは写真が貴重な資料となる。

### 4. 研究成果

(1) 能狂言面に用いられた樹種についてはヒノキが圧倒的に多いが、室町時代までに作られた古面は、クスノキ、キリなども少なくない。そして古面には木心を込めるもの、節のあるもの、木裏(樹皮側を木表、木心側を木裏と言い、木表に彫刻するのが普通)に彫刻するものも見られる。

挿図は、「能面 大天神」(東京国立博物館所蔵 C-1534)のX線CT撮影による上下方向の断面画像である。木心を込めた材から作ったことがわかる。挿図は前後方向の断面。額に節のあることがわかった。木心、節の周囲は堅く、工作には不向きである。わざわざそのような木を用いた理由は不明だが、神聖な木だった可能性がある。この面は室町時代・15世紀の作と見られる。木心を込める例として梅若家所蔵の山姥(重要文化財)があり、節のある作例として宝生家の増女(重要文化財)がある。



挿図



挿図

(2) 能面には名物面として尊重されたものを忠実に写すことが頻繁に行なわれた。その際、名物面の彩色の剥落や損傷、面裏の割りなどまで写す場合もある。その比較によって写しの精密度がわかる。金春家伝来の「能面中将」は、鼻の頭の傷、面裏頂部の欠損の状況から静岡・佐野美術館所蔵面を本面と推定した。

「能面 中将」は東京国立博物館、佐野美術館、愛媛・東雲神社所蔵の面を調査して比較した。鼻の頭の傷を詳細に見てみると佐野美術館の面の傷は卵の殻が割れたような自然なひび割れだが、東京国立博物館の面は直線で構成され、針書きしたと見られる。東雲神社の面は筆で描いている。

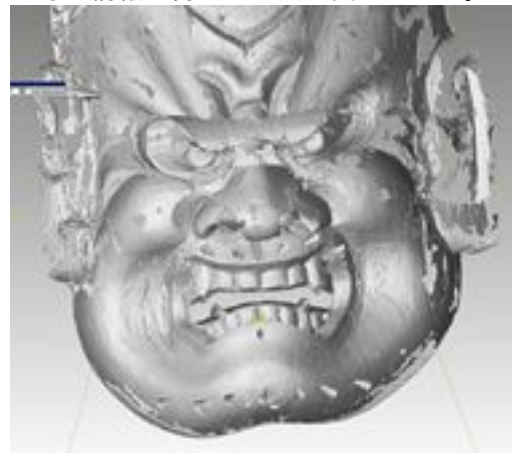
(3) 面裏には作者を示す焼印、花押、銘文などが見られる面もあるが、これらも写すことが多いため、作者(面打)を特定することはできない。しかし、写しでも作風、彩色仕上げの手法、面裏の割りなどに面打の個性が現れる。今回の研究で面打を特定できる面を複数見出した。

桃山時代から江戸時代初期に活躍した是閑の面には、その作であることを示す焼印「天下一是閑」が押されていることが多いが、

それだけでは信用できない。面裏の鼻の下に鑿跡を斜めに3本刻むのが是閑の知らせ鉦(その面打固有の鑿跡)であるが、これも写すことがあり、信用できない。面のくっきりした表情と出来のすばらしさ、面裏の鑿跡が目立たない点などの特色がそろえば、是閑の真作と推定できる。

是閑と同じ大野出目家の系統で江戸時代前期に活躍した洞白、洞水は硬質な彩色で、面裏は鑿跡が目立ち、赤茶色を塗ることが多い。

(4) 東京国立博物館所蔵の能面についてはX線CT調査を実施した。金春家伝来の父尉は、紐で繋がれた吊顎部分は材が異なることがわかった。後補と見られる。同家伝来の顰は口ひげ、顎ひげを植毛した孔が確認できた(挿図)。顰はひげを墨描し、植毛するものはないので、別の種類の面を改作したか、顰が定型化する前の先行面の可能性が考えられる。X線CT調査は、樹種、木取り、構造等の情報が得られる点で貴重である。



挿図

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計2件)

(1) 浅見龍介・川岸瀬里・小山弓弦葉「金春家伝来の能面・能装束」(東京国立博物館、2017年、136ページ、9-69ページ)

(2) 浅見龍介・川岸瀬里「能面 創作と写

し」(東京国立博物館、2014年、24ページ)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅見 龍介 (ASAMI RYUSUKE)  
東京国立博物館 学芸企画部 課長  
研究者番号：30270416

(2) 研究分担者

浅湫 毅 (ASANUMA TAKESHI)  
京都国立博物館 学芸部 室長  
研究者番号：10249914

(3) 研究分担者

丸山士郎 (MARUYAMA SHIRO)  
東京国立博物館 学芸企画部 室長  
研究者番号：20249915

(4) 研究分担者

荒木臣紀 (ARAKI TOMINORI)  
東京国立博物館 学芸研究部 室長  
研究者番号：20537344

(5) 研究分担者

海老澤るりは (EBISAWA RURIHA)  
公益財団法人三井文庫 文化史研究室  
主任研究員  
研究者番号：40615811

(6) 研究分担者

矢野賀一 (YANO YOSIKAZU)  
東京国立博物館 学芸企画部 主任研究

員

研究者番号：60392544

(7) 研究分担者

川岸瀬里 (KAWAGISHI SERI)  
東京国立博物館 学芸企画部 アソシエ  
イトフェロー  
研究者番号：60610946

(8) 研究協力者

門脇幸恵 (KADOWAKI YUKIE)  
国立演芸場 営業課 主任

(9) 研究協力者

新井達矢 (ARAI TATSUYA)  
面打 (能狂言面作家)